

5 古典

学習の要点

- 1 歴史的仮名遣いの現代仮名遣いへの書き換え(注意点)
 - ① 意味を書かないようにする。
 - ② 語頭に来ない「ハ行」の書き換え。
 - ③ 母音の結合による音の変化。
 - ④ 現代仮名遣いにならない字「ゐ」「ゑ」。
- 2 係り結びの法則
 - や・か(疑問・反語)／なむ・ぞ(強意) ↓連体形
 - こそ(強意) ↓已然形
- 3 基本古語
 - 「いと」(副・非常に) ●「げに」(副・本当に。全く)
 - 「いみじ」(形・甚だしく。非常に)
 - 「あはれなり」(形動・しみじみとした情趣がある)
 - 「をかし」(形・愉快だ。興味深い。趣がある)
 - 「ゆかし」(形・見たい。聞きたい。知りたい。読みたい)
 - 「ののしる」(動・大声で騒ぐ)
 - 「おどろく」(動・目を覚ます)
 - 「やがて」(副・すぐに。さっそく)
 - 「え」(副・打ち消しの語と結びつき、「〜できない」の意を表す)
- 4 注意すべき助詞
 - 「の」①連体修飾語を作る。②主語を示す。③同格の意を表す。
 - 「ば」①未然形＋「ば」↓仮定条件 ②已然形＋「ば」↓確定条件

確認問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

昔、男、ありけり。人の娘の^①かしづく、^{*}いかでこの男に^②ものいはむと思ひけり。^{*}うちいでむことかたくやありけむ、もの病みになりて^{*}死ぬべきときに、「^③かくこそ思ひしか。」といひけるを、親聞きつけて、泣く泣く^④告げたりければ、^⑤まどひ来たりけれど死にければ、^⑥つれづれと^{*}こもりをりけり。時は^⑦水無月の^{*}つごもり、いと暑き^{*}ころほひに、^⑧宵は^⑨遊びをりて、夜ふけて、やや涼しき風吹きけり。螢高く飛びあがる。この男、^⑩見ふせりて、

A ^{*}ゆく螢雲の上まで ^{*}往ぬべくは秋風吹くと雁に^⑪告げこせ

B 暮れがたき夏の日ぐらしながむればそのこととなくもの^⑫ぞ悲しき

〔伊勢物語〕第四十五段より

(注) いかで＝なんとかして。

うちいでむことかたくやありけむ＝言い出すのが難しかったのでしょ
うか。

死ぬべきとき＝死にそうになったときに。

まどひ来たりけれど＝慌てふためいてやって来たのでしたが。

こもりをりけり＝喪に服していました。

つごもり＝下旬。末。ここでは下旬。

ころほひ＝ころに。 遊びをりて＝音楽を奏して。

ゆく螢＝飛んでゆく螢よ。

往ぬべくは＝行くことができるのなら。

□(1) — 線①～⑩の歴史的仮名遣いを、現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで答えなさい。

c	a
d	b

□(2) — 線①「かしづく」、④「つれづれと」、⑥「見ふせりて」の現代語訳として最も適切なものを次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ①
- ア ずいぶん賢い娘が
 - イ ひざまずいている娘が
 - ウ 大事に育てている娘が
 - エ 結婚した娘が

- ④
- ア 連れの者たちと一緒に
 - イ なすこともなく寂しい気持ちで
 - ウ しぶしぶと仕方なく
 - エ 一生懸命がんばって

- ⑥
- ア 娘を見て伏せて
 - イ 横になったままこれを見て
 - ウ 自分の姿を見せないようにして
 - エ 見るとすぐに伏して

□(3) — 線②「かくこそ思ひしか」とありますが、どのように思っていたのですか。「〜思っていた」という形で、二十五字以内(句読点も字数に数えます)で書いて答えなさい。

思	っ	て	い	た	。
---	---	---	---	---	---

□(4) — 線⑤「水無月」は陰暦何月ですか。次から最も適切な月を選び、記号で答えなさい。

- ア 五月
- イ 六月
- ウ 七月
- エ 八月
- オ 九月
- カ 十月

□(5) — 線③「告げ」とありますが、①だれが、②だれに「告げ」たのですか。それぞれ本文中から適切な語を書き抜いて答えなさい。

①	②
---	---

□(6) — 線⑦「ぞ」は係助詞ですが、このことばの結びになっている語を、本文中から書き抜いて答えなさい。

--

□(7) Aの短歌の中の「雁」は、だれのことをたとえたものですか。本文中から三字で書き抜いて答えなさい。

--

□(8) Bの短歌の現代語訳として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 暮れにくい夏を一日中ながめていると、何も考えることがなく、悲しみも何も感じない一日となってしまった。
- イ 暮れにくい夏の一日中を、ぼんやりとももの思いに沈んでいると、何ということもなくもの悲しいものだ。
- ウ 暮れにくい夏を、その日ぐらしでながめていると、そのことも忘れて去って悲しさだけが強くこみあげてきたことだ。
- エ 暮れにくい夏の日に鳴き続けているヒグラシを眺めていると、そのせいではないが、悲しい気持ちになることだ。

□(9) 本文は歌物語の「伊勢物語」からの引用ですが、「伊勢物語」の成立時期として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 奈良時代
- イ 平安時代
- ウ 鎌倉時代
- エ 室町時代

● 練成問題

① 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある 吝嗇りんしょくなるもの「ことしはことにもものついやしぬ」とて、^aをよび折かぞへたてぬ。「^bまづ春より秋まで、かの^①いたづきに^{*}よて、のめる薬も^{*}かばかりなり、それにかかる事もありし」などかぞへつついふを、つくづくと、^cききぬし人が「いと^{*}さがたきがうへに、君が身につきたるものひとつあり。^②是をいかに^③費つぎといはん」といへば、「なになるや」^④ととふ。「^④薬のみ給はずば、かくけふなげき事もえいひ給はじ。かく^dいひ給ふは薬のめぐみなれば、^⑤それにむくひ給ふを費と心得給ふか」といひし。^⑥かのひとはこれを費と^{*}せちに^{*}思ひけんかし。

〈松平定信「花月草紙」より〉

(注) 吝嗇⇨過度にものおしみすること。けち。をよび⇨指。よて⇨よつて。かばかり⇨こんなにも。これほど。さりがたき⇨離れにくい。せちに⇨ひたすら。しきりに。思ひけんかし⇨思ったということですよ。

□(1) — 線a)~d)の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに改め、すべてひらがなで書いて答えなさい。

c	a
d	b

□(2) — 線①「いたづき」・③「費」の意味として適切なものを次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

□①「いたづき」

- ア 苦勞 イ 負傷 ウ 病氣 エ 疲勞

□③「費」

- ア 臨時の出費 イ ぎりぎりの出費
ウ 必要な経費 エ むだな消費

①
③

□(3) — 線②「是」の指し示す事柄を、問題文の内容に即して漢字二字で答えなさい。

--

□(4) — 線④「薬のみ給はずば、かくけふなげき事もえいひ給はじ」の意味として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 薬だけお飲みになって、このように今日嘆き事をおっしゃってもはじまるまい。
イ もし薬をお飲みにならなければ、このように今日嘆き事もおっしゃることができない。
ウ もし薬をお飲みにならなければ、このように今日嘆き事もおっしゃらずにすんだのに。
エ もし薬をお飲みになっても、このように今日嘆き事をおっしゃっただろうに。

--

□(5) — 線⑤「それ」の指すものを、本文中から一語で書き抜いて答えなさい。

--

□(6) — 線⑥「かのひと」と同一の人物を指していることばを、本文中から二つ書き抜いて答えなさい。

--	--

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

雅房大納言は、才賢く、よき人にて、大将にもなさばやとおぼしけるころ、院の近習なる人、「ただ今、あさましき事を見侍りつ」と申されければ、「何事ぞ」と問はせ給ひけるに、「雅房卿、鷹に飼はんとて、生きたる犬の足を斬り侍りつるを、中垣の穴より見侍りつ」と申されけるに、うとましく、憎くおぼしめして、日ごろの御気色も違ひ、昇進もし給はざりきり。^① さばかりの人、鷹を持たれたりけるは思はずなれど、犬の足は跡なき事なり。虚言は不便なれども、^② かかる事を聞かせ給ひて、憎ませ給ひける。君の御心は、いと尊き事なり。おほかた、生けるものを殺し、傷め、闘はしめて遊び楽しまん人は、畜生残害の類なり。万の鳥獣、小さき虫までも、心をとめて有様を見るに、子を思ひ、親をなつかしくし、夫婦をともしなひ、嫉み、怒り、欲おほく、身を愛し、命を惜しめること、ひとへに愚痴なるゆゑに、人よりもまさりて甚だし。彼に苦しみを与へ、命を奪はん事、^④ いかでかいたましからざらん。すべて、一切の有情を見て、慈悲の心なからんは、人倫にあらず。

〔兼好法師「徒然草」より〕

(注) 才賢く＝学識がすぐれて。 なさばや＝ならせたい。

院の近習なる人＝院(上皇)のおそば近くに仕える人。

鷹に飼はん＝鷹狩り用の鷹に餌をやること。

中垣＝隣の家との隔ての垣根。

さばかりの人、虚言は不便なれども＝それほどの人が、鷹をお飼ひ

になっていたのは予想外であるが、犬の足の一件は根拠のない

ことである。うそを言われたのは気の毒だが。

畜生残害の類＝相互に食い合う禽獣の類。

愚痴なる＝無知で道理をわきまえない。

有情＝生きもの。 人倫＝人間。 人類。

□(1) 線①「日ごろの御気色」は「ふだんからのお気持ち」という意味ですが、その具体的内容として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 大将にもしてやりたいものだ。

イ いとわしく、憎い。

ウ あきれはてたことだ。

エ 畜生が互いに食い合っていると同類だ。

□(2) 線②「かかる事」は「このようなこと」という意味ですが、「かかる事」が指している内容をまとめた次の文の□に入る適切なことばを、

①は三字、②は七字で、それぞれ本文中から書き抜いて答えなさい。

〔①が、鷹狩りのために飼っている鷹に食べさせるために、②を斬っていたという話。〕

①	
②	

□(3) 線③「君」と同じ人物を指すことばを、本文中から一語で書き抜いて答えなさい。

--

□(4) 線④「いかでかいたましからざらん」の訳として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア どうしてふびんなことがあるうか。

イ どのようなふびんであるのだろうか。

ウ どうすればふびんではないだろう。

エ どうしてふびんでないことがあるうか。

--

□(5) 本文を内容の上から二つの段落に分けるとすると、後半の段落はどこから始まりますか。後半の段落の最初の五字(読点も字数に数えます)を書き抜いて答えなさい。

--